マ友の輪を広げることも家力 などに取り組んでいます。 つろいでもらえる空間の提供 カフェのようにく 子育て中のママた

庭的保育に興味を持ち始めれたらと考えたことが、家 たきっかけです。

現在は、 自宅のリビングを

たらと考えたことが、家だけでも、預かってあげらいました。買い物に行く間では、でのであげられました。買い物に行く間ではでである姿を見いかに行いる姿を見いない。

昭和55年生まれ。富山県出身。ご主人の転勤を機に、 27年春に神奈川県から八幡平市へ移住する。2児の母

ションをとることでスト

と考えています。 だと思っています。 の人間。子育てだけに苦労せ フェを目指しています。 もてることもメリットである てについて学び合える機会を な子育て環境の在り方が必要 んなで作るみんなのためのカ レスの解消になったり、子育 ママも母親である前に一人 訪れる人み

て、4月から保育士の友人と その人らしく輝けるよう 自分は補助者とし

> 気がしました。少子高齢化の 平市に戻ってきた時、 上につながると思っています 女性の社会進出と出生率の向 ないと思いました。子育て世 世代へのサポ 考えた時、 現状でまちの活性化につ つての活気がなくなっている 代が頼れる場所を作ることは しく子育てができる場所とな そのことを外に発信でき 市に住みたいという人 八幡平市が安心して楽 若い世代や子育て 30代になり、 代になり、八幡関東で働いて トが足りてい 街にか いて

組みをしていきたいと思いま境の充実に焦点を当てた取りきっかけに、まずは子育て環 と思えるまちづくりを目指し にいれば楽しく子育てできる 業に向けて準備中です。ここ をしたい。そう思ったことを 人を含めた仲間たちと共に起 現在、 本研修で知り合った

て少しずつ具現化していきた

昭和52年生まれ。現在は財務処理系システムコンサル タントとしてフリーランスで働く。1児の父。

ーママがその人らしく輝けるような子育で空間を提供したい 女性や共働き世帯が楽しく子育てできるようなまちをつくりたい一

子育てがまちづくり活性化のひとつのポイントに 新しい保育のカタチづくりが少しずつ動き始めています



市内保育サービス提供体制の充実 ているのが現状です。 する傾向にあり、本市においても から数人ですが、年度途中に増加 で19人。毎年4月時点では、ゼロ 市の待機児童数は、28年12月現在 なっているのが、 や不安要素として全国的な問題と 実を図っています 業計画』を策定し、それに基づい本市も『市子ども・子育て支援事 て、市内の子育て環境や支援の充 **孵消までの課題は依然として残っ** そんな中、 子育てに関して、特に悩みの種 待機児童問題解消や 待機児童問題。

に向けての取り組みの一つとし 市は本年度『家庭的保育者研

が増加するとも考えています

子どもたちに将来少しでも

人たちが輝けるまちづくり い街を残してあげたい

を満たした場所を使用して行われ とができます。 低年齢児の保育の仕事に携わるこ 生労働省が定める子育て支援員 学・実習も行いました。昨年12月 や子育て家庭の現状、 (家庭的保育者・補助者)として、 証を交付しました。修了者は、 止彦市長は、28人に本研修の修了 中に研修の全日程が終了し、 小児保健、保育上の安全の確保な から計5日間、受講者は、子ども 県内の保育士が講師を務め、 に、市内外10~70代の男女が受講。 新しい形の保育の担い手として その担い手を養成する本研修 保育に必要な知識や技能を学 保育室として必要な設備基準 2日間にわたる保育所での見 食事·栄養、 田村 厚

子育て支援新制度』に併せて

国が施行した『子ど

味を持ったきっかけや今後の活動 の中から2人に、家庭的保育に興 されます。次ページでは、修了者 本研修修了者の今後の活躍が期待

修会』を開催しました。 所(保育のために借りた建物)な 庭的保育事業者が行う公的な保育 基づき、市町村の認可を受けた家 家庭的保育とは、児童福祉法に 保育者の居宅やその他の場 No.259 ©2017. 1. 12

のはちまんだもり